

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K01170

研究課題名(和文) 現代インドにおける環境政策・環境運動・宗教実践の多元的展開に関する人類学的研究

研究課題名(英文) An anthropological study on the pluralistic development of environmental policy, environmental movements, and religious practices in contemporary India

研究代表者

石井 美保 (Miho, Ishii)

京都大学・人文科学研究所・准教授

研究者番号：40432059

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：インド・カルナータカ州の国立公園指定地域において焼畑農耕と狩猟を生業としてきたKudubiの人々を対象に、環境保護を目的とする法律の施行と改定・拡充による彼らの生活変容と社会運動の実態を明らかにし、その成果を和書と英文ジャーナルで発表した。また、国際学会(EAEH 2021)において、“Conservation, Environmentalism, and Imagined Nature in India”と題したパネルを組み、今日のグローバルな環境主義と環境政策をめぐる問題について問題提起を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、主にインド・カルナータカ州の国立公園を対象として、環境政策と環境運動、宗教実践の関係とその動態を検討してきた。環境保護政策によって周辺化された地域住民に関する調査から、「守るべき種」を選別する環境主義のはらむ問題が明らかになった。本研究のより広い目的は、人間と環境の関係に介在する権力作用と、それに抗する人々の実践をミクロな視座から明らかにすることであるが、インドの国立公園に関する本研究は、プロジェクト実施期間に生じたパンデミックをめぐる問題を考える上でも重要な事例を提供するものである。

研究成果の概要(英文)：Focusing on the Kudubi people, who have made a living by slash-and-burn agriculture and hunting in the designated national park area of Karnataka State, India, this study clarified the transformation of their lives and social movements due to the implementation and expansion of environmental protection laws, and published the results in Japanese and English journals. I also organized a panel titled “Conservation, Environmentalism, and Imagined Nature in India” at the international conference (EAEH 2021) and raised issues surrounding today's global environmentalism and environmental policy.

Translated with DeepL.com (free version)

研究分野：文化人類学

キーワード：環境問題 自然保護 インド 精霊信仰 狩猟採集 野生動物 文化人類学 ポリティカル・エコロジ

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は2008年以降、インド・カルナータカ州沿岸部(南カナラ)の農村地域を対象に、「ブータ」と呼ばれる神霊の祭祀を核とする人々と野生の関係性に関する調査を行ってきた。この調査を通して、地域社会において「土地の主」とされる神霊への祭祀と、ローカルな反開発運動の展開との間に深い関連があることが明らかになった。南カナラでの調査で得られた成果と問題意識に基づき、本プロジェクトでは調査対象を北カナラに広げ、国家や州政府による環境政策とローカルな環境運動、ならびに精霊信仰を含めた宗教実践の関係を明らかにするという研究を着想した。

2. 研究の目的

本プロジェクトの目的は、主にインド・カルナータカ州ウッタラカンナダ県の自然保護区を対象として、環境政策と環境運動、宗教実践の関係とその動態を明らかにすることである。環境保護政策によって周辺化された地域住民(クドゥビ)に関する調査を通して、「守るべき種」を選別する環境主義のはらむ問題を指摘するとともに、社会運動や儀礼の修正を含めた人々の対応のあり方と、人々と自然の多面的な関係性を明らかにすることを試みた。本研究のより広い目的は、人間と環境の間に介在する権力作用と、それに抗する人々の実践をミクロな視座から明らかにすることであるが、インドにおける自然保護に関する本研究は、プロジェクト実施期間に生じたパンデミックをめぐる問題を考える上でも重要な事例を提供するものである。

3. 研究の方法

インド(主にカルナータカ州)にて現地調査を実施した。また、自然保護・多様な関係・ポリティカルエコロジー等に関する文献調査を行い、和書、英文ジャーナル、国際学会で研究成果を発表した。

4. 研究成果

2018年9月と2019年3月の二度にわたり、インド・カルナータカ州 Uttara Kannada District, Joida Taluk を中心に、計1ヶ月間にわたる現地調査を行った。本プロジェクトの主な調査地である Uttara Kannada District は西にアラビア海を臨み、西ガーツ山脈を擁する自然豊かな地域である。西ガーツ山脈はベンガルトラやインドゾウをはじめとする希少な野生生物の生息地であり、生物多様性ホットスポットに指定されている。この西ガーツ山脈の北西部に、私が調査を行ったカーリー・トラ保護区(Kali Tiger Reserve)がある。2018年9月の調査では、Uttara Kannada District の国立公園指定地域を中心に広域調査を行い、現地の社会運動家や研究者と交流しつつ、調査地の選定を進めた。2019年3月の調査では、Joida Taluk のカーリー・トラ保護区に焦点を当て、この地域に住む Kudubi の人々へのインタビューと儀礼の参与観察を集中的に行なった。Kudubi の人々の多くは森林内部に居住し、長らく焼畑耕作によって生計を立ててきた。また宗教儀礼と深く結びついた狩猟は、彼らの生活において重要な意味をもっていた。しかし、森林とトラをはじめとする野生動物の保護を目的とする法律の度重なる施行と改定・拡充によって、彼らの生活は根本的な変容を余儀なくされていることが、この調査から明らかになった。また、このような窮状にありながらも Kudubi の人々は指定トライブとしての認定・インフラの整備・教育への援助等をめぐって州政府にはたらきかけるなど、地道な運動をつづけていることが明らかになった。

2019度は、科研費を用いて行ったインドでの調査結果をまとめた著書の英訳・改訂版である著書"*Modernity and Spirit Worship in India: An anthropology of the Umwelt*"の英訳を完成させ、11月に Routledge から出版した。また、三つの国際学会(The Fifth Biennial Conference of East Asian Environmental History 2019, National Cheng Kung University, Taiwan; Religion at Work: Gods, Goddesses, and Occult Powers in the Lives and Livelihoods of India's Artisans, Technicians, and Manufacturers. Symposium for the 2019 South Asia Conference, October 17th, Madison; ICAS11 Leiden, the Netherlands)で研究発表を行い、国内外の研究者と意見交換を行った。

2020度は、COVID-19のためにインド・カルナータカ州での現地調査を行うことができなかった。そのため、新たな一次資料を得ることは限界があった。しかし、これまでの研究成果を論文にまとめ、編著(石井美保・岩城卓二・田中祐理子・藤原辰史編『環世界の人文科学 - 生と創造の探究』人文書院)の一章として発表した。また、京都大学人文科学研究所の開催する二つの共同研究班において、インドの自然保護区に関するこれまでの現地調査と文献研究に基づく口頭発表を行った(①発表タイトル: 'Conservation, Experiments, and Biopolitics' 「実験性の生態学: 人新世における多種共生関係に関する比較研究」2020年11月28日、②発表タイトル: 「自然環境」と「野生」のはざままで: 近代プロジェクトとしての開発と自然保護をめぐる問題」 「環境問題の社会的研究」2021年2月1日)。さらに、2019年に Routledge から出版され

た”*Modernity and Spirit Worship in India: An Anthropology of the Umwelt*”が、京都大学の「2020年度 人社系海外出版書籍のオープンアクセス化事業（洋書）」に採択され、Creative Commons ライセンを得てオープンアクセス化された。以上のように、現地調査を実施することはできなかったものの、これまでの調査研究の内容をまとめ、成果を発表したという点において研究の進展があった。

2021年度以降は、引き続き新型コロナウイルスの流行による渡航制限等のために、予定していた南インド・カルナータカ州北西部に位置する自然保護区での現地調査を実施することができなかった。しかしながら、これまでの調査で収集した一次データや資料を整理するとともに、自然保護・多種間関係・ポリティカルエコロジー等に関する関連文献を渉猟して理論的視座を深めるとともに、論文執筆や口頭発表を通して精力的に研究成果を公表した。また、本研究の主要なテーマである人間と環境の関係と、そこに介在するさまざまな政治権力や作用をめぐる問題は、コロナ禍においてより顕著に観察・分析されうる対象になったといえる。そうした問題意識から、SARS-CoV-2 と種間倫理をテーマとする英語論文を執筆し、国際学術誌である *Current Anthropology* に発表した。この論文において提示した、種間の過剰な接近や介入に伴う問題と、禁忌や儀礼によって維持・現実化される種間倫理というアイデアは、本研究の問題関心と通底するものであり、インドでの調査によって培われた見地に基づいている。また、The Sixth Biennial Conference of East Asian Environmental History (EAEH 2021) において、“Conservation, Environmentalism, and Imagined Nature in India”と題したパネルを組み、他大学の研究者とともに研究発表を行った。このパネルのテーマと問題意識は、本プロジェクトでの調査研究を通して培われたものである。すなわち、インドを対象として人間と環境の関係を検討した人類学・歴史学的研究のひとつの潮流として、環境運動を民衆運動や民主主義との関連から評価する研究群を挙げることができる。他方で、環境運動がその一部をなすポリティカル・エコノミーの分析に基づき、環境主義的言説のもつ政治性や、運動内部の階層分化と格差の問題を指摘する研究も存在する。さらに、「環境的主体」という概念を用いて地方における環境主義の浸透と軋轢を分析する研究も登場している。これらの研究は、インドにおける環境運動や自然保護が国家の法やイデオロギーと、ローカルで多角的な運動のせめぎ合いの中で形成され、変容してきたことを示している。現代インドにおける人々と環境の関係は、モディ政権における新自由主義的政策の推進と保守的イデオロギー、さらにグローバルな環境保護の要請の下で新たな局面を迎えている。このパネルでは、本プロジェクトの主な研究対象のひとつである北カナラにおけるトラ保護と現地住民への影響をはじめとする具体的な事例の検討を通して、現代インドにおける環境運動と自然保護、環境主義の現状と問題を明らかにした。このパネル発表を通して得られた知見、なかでもインドにおいて環境問題を中心に調査を進めている研究者である Jenia Mukherjee 氏からいただいたコメントは、今後の研究にとって重要な示唆に富むものであった。今後はインドにおける感染状況を見極めつつ、現地調査を進めて環境運動・環境政策・宗教実践に関する一次データを取得することを目指す。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Miho Ishii	4. 巻 29
2. 論文標題 Living in the forest as a pluriverse: Nature conservation and indigeneity in India's Western Ghats	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Political Ecology	6. 最初と最後の頁 725-740
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2458/jpe.2378	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Miho Ishii	4. 巻 62
2. 論文標題 The Code of Pangolins: Interspecies Ethics in the Face of SARS-CoV-2	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Current Anthropology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1086/716762	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石井美保	4. 巻 86
2. 論文標題 「止まった時間」を生きる：学校事故をめぐる倫理的応答の軌跡	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 287-306
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14890/jjcanth.86.2_287	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井美保	4. 巻 50
2. 論文標題 トム・ヴァン・ドゥーレン 『フライト・ウェイズ』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 63-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miho Ishii	4. 巻 11
2. 論文標題 Book Review: Rambelli, Fabio, ed., Spirits and Animism in Contemporary Japan: The Invisible Empire. London: Bloomsbury Academic, 2019. Religion and Society 11(1): 223-225.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Religion and Society	6. 最初と最後の頁 223-225
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3167/arrs.2020.110115	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 石井美保
2. 発表標題 精霊を待ち望むー一憑依、パトス、中動態
3. 学会等名 第29回多文化間精神医学会学術総会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Miho Ishii
2. 発表標題 Nature conservation and indigeneity in India's Western Ghats
3. 学会等名 The Sixth Biennial Conference of East Asian Environmental History (EAEH 2021) 2021年9月7日 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石井美保
2. 発表標題 「反-道徳としての呪術的实践について: パッション、ゾーエー、倫理の彼岸」
3. 学会等名 日本文化人類学会第54回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Miho Ishii
2. 発表標題 Floating spirits and wandering ghosts: The mourning environment in modern Japan
3. 学会等名 The Fifth Biennial Conference of East Asian Environmental History (EAEH 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Miho Ishii
2. 発表標題 Spiritual Infrastructure/ Infrastructural Spirits
3. 学会等名 Symposium for the 2019 South Asia Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Miho Ishii
2. 発表標題 Community policing or Communal policing?: Attacks by Hindutva outfits and the creation of "minority" in South India
3. 学会等名 The 11th International Convention of Asia Scholars (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Miho Ishii
2. 発表標題 Being possessed and re-possessing perspectives: Care, practice, and the path of transformation of the self
3. 学会等名 Embodying Modern "Scientific" Medicine and "Religious/Spiritual" Healing: A Comparative Perspective on Non-Voluntary Spirit Possession (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoko Taguchi, Miki Namba, Grant Jun Otsuki, Gergely Mohacsi, Shuhei Kimura, and Miho Ishii
2. 発表標題 Anthropologies of Science and Technologies in Japan
3. 学会等名 STS Across Borders Digital Exhibit, curated by Aalok Khandekar and Kim Fortun. Society for Social Studies of Science. (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計14件

1. 著者名 石井美保	4. 発行年 2022年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 272
3. 書名 たまふりの人類学	

1. 著者名 石井美保	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 327
3. 書名 遠い声をさがして	

1. 著者名 Diana Espirito Santo (Anthology Editor), Matan Shapiro (Anthology Editor), Miho Ishii, et al	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Bloomsbury	5. 総ページ数 226
3. 書名 The Dynamic Cosmos: Movement, Paradox, and Experimentation in the Anthropology of Spirit Possession	

1. 著者名 石井美保, 岩谷彩子, 金谷美和, 河西瑛里子編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ナカニシヤ書店	5. 総ページ数 296
3. 書名 官能の人類学：感覚論的転回を超えて	

1. 著者名 石井美保	4. 発行年 2020年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 477
3. 書名 「多元世界としての森を生きる インド・西ガーツ山脈における自然保護と在来性」石井美保・岩城卓二・田中祐理子・藤原辰史編『環世界の人文学 - 生と創造の探究』、pp. 193-217.	

1. 著者名 石井美保	4. 発行年 2020年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 456
3. 書名 「流動化する暴力とヒンドゥー・ナショナリズム」田中雅一・石井美保・山本達也編『インド・剥き出しの世界』、pp.203-229.	

1. 著者名 石井美保	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 306
3. 書名 「センザンコウの警告」村上陽一郎編『コロナ後の世界を生きるー私たちの提言』	

1. 著者名 Miho Ishii	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 299
3. 書名 Modernity and Spirit Worship in India : an Anthropology of the Umwelt	

1. 著者名 石井美保	4. 発行年 2019年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 224
3. 書名 めぐりながれるもの人類学	

1. 著者名 松村圭一郎・中川理・石井美保共編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 224
3. 書名 文化人類学の思考法	

1. 著者名 南條史生, アカデミーヒルズ, 石井美保他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 NTT出版	5. 総ページ数 264
3. 書名 人は明日どう生きるのか 未来像の更新	

1. 著者名 松村圭一郎・石井美保他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 わたしの外国語漂流記: 未知なる言葉と格闘した25人の物語 (14歳の世渡り術)	5. 総ページ数 240
3. 書名 河出書房新社	

1. 著者名 石井美保 (「生き物としての実験室と有機的な網目: 世界を動員するネットワークを異化するために」)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 382
3. 書名 山室信一・岡田暁生・小関隆・藤原辰史編『われわれはどんな「世界」を生きているのか』	

1. 著者名 石井美保 (「科学の詩学にむけて」)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 232
3. 書名 山室信一編『人文学宣言』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>石井美保研究室 https://www.mihoishiianthropology.com/ リサーチマップ https://researchmap.jp/read0138817/books_etc/39826729 京都大学教育研究データベース http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/jL3wJ 石井美保研究室 https://www.mihoishiianthropology.com/ リサーチマップ https://researchmap.jp/read0138817 京都大学教育研究データベース http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/jL3wJ 石井美保研究室 https://www.mihoishiianthropology.com/ リサーチマップ https://researchmap.jp/read0138817 京都大学教育研究データベース http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/j/jL3wJ 石井美保研究室 https://www.mihoishiianthropology.com/ 石井美保マイポータル https://researchmap.jp/read0138817 京都大学教育研究活動データベース</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------